

「地盤View」の現状と今後について

環境科学研究所 ○川上 進
石川 孝之

1 はじめに

環境科学研究所では、これまでに横浜市の工事等担当部署が発注した地盤調査の成果を有効活用するためにデータベース化し、市民等が地盤状況を把握したり減災等に役立てられるよう、平成 17 年度から横浜市のホームページ「地盤 View」(横浜市地盤地図情報)で一般公開しています(図 1: 丸印がボーリング位置)。これまでに「地盤 View」に登録した土質柱状図は約 9,000 本になります。



図 1 地盤 View 画面

2 利用状況等

「地盤 View」への庁内、庁外別のアクセス件数の推移は下グラフ(図 2)のとおりです。東日本大震災後に急激に増加し、その後減少しているが、震災前のレベルより上回っています。

また、市民等からの地盤に関する問合せ件数の推移を図 3 に示します。やはり震災後に増加しているが、昨年度はさらに高い件数となっています。問合せの内容は、住宅用地購入に際しての検討等個人からのものが多く、その他建築工事等に際しての民間業者からのもの等があります。庁内・庁外の問合せ内容を分類すると、「地盤 View」の今後の課題も見えてきます。

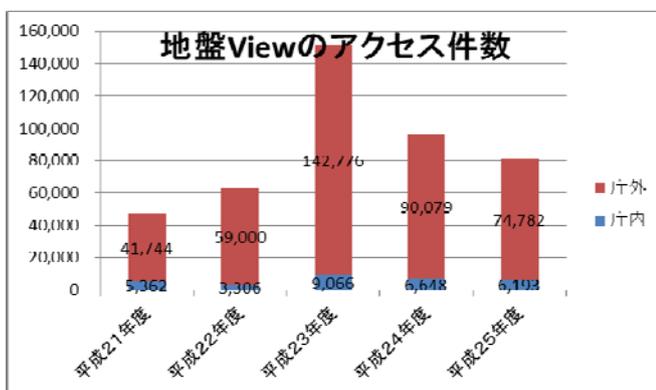


図 2 「地盤 View」へのアクセス件数

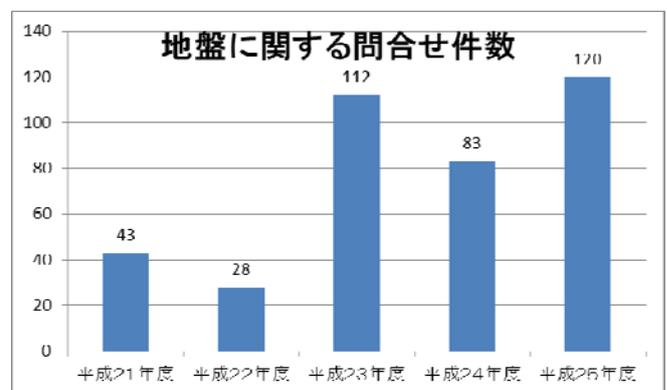
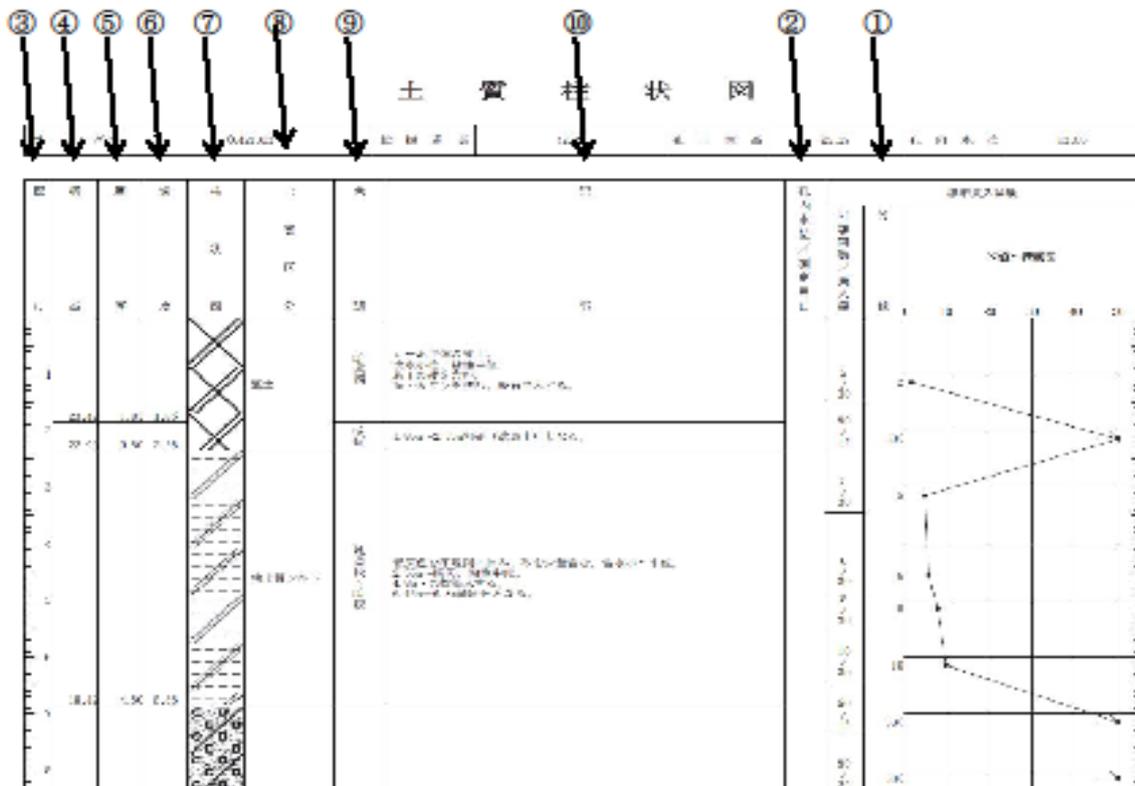


図 3 市民等からの問合せ件数

3 地盤 View 閲覧のポイント



用語の説明

- ① N値：地盤の強さを示す指標です。重さ 63.5 k g のハンマーを 75 cm 落下させて円筒形の試料採取器を土中に打ち込み、30 cm 打ち込むのに必要な打撃回数です。N 値が大きいほど硬く、小さいほど柔らかいということになります。最少が 0 で最大が 50 です。
- ② 孔内水位：孔内水位とは、ボーリングを掘削したときに円筒形の筒の中に溜まった水の水位を地面から測ったものです。地下水位と一致するものではありませんので、あくまでも目安として考えてください。
- ③ 標尺：地表を 0 としたときの地中の深さを示すもの。単位は m です。
- ④ 標高：東京湾中等潮位 (TP) よりの高さです。
- ⑤ 層厚：異なる土質 (地層) ごとの厚さを表すものです。
- ⑥ 深度：地面を 0 とし、土質 (地層) が次が変わった地点の深さを表しています。
- ⑦ 柱状図：層ごとの土質 (地層) を表示する記号 (模様) を表しています。
- ⑧ 土質区分：土質 (地層) の種類を表しています。詳細につきましては (財) 国土技術研究センター HP をご覧ください。 (URL : www.jice.or.jp/tosho/pdf/dokouh21_08.pdf)
- ⑨ 色調：土の色の状態を表しています。
- ⑩ 記事：土質の状態を細かく記録したものです。

図 4 土質柱状図

3 さいごに

東日本大震災や広島市での災害を契機に、市民の地盤への意識が高まっています。また、民間・公共を問わず該当地の地盤状況の把握の必要性が感じられます。

安全・安心な生活環境の保全のために、地盤情報を監視するとともに、各部署からの土質調査結果報告書の提供促進や、地盤データの活用推進のための庁内及び一般向けの講習等を行っていきます。